

研究科について

About Us

研究科について

研究科長からのメッセージ

教育理念と目標・計画

情報科学研究科の組織

歴史・沿革

キャンパス環境

フロアマップ

ヴォイス

教員一覧

専攻・講座について

研究科ニュース

研究活動・産学官連携

教育活動・学務情報

入試情報

就職情報

広報・発行誌

研究科からのお知らせ

関連リンク

交通アクセス

HOME > 研究科について > ヴォイス > ヴォイス1・第2回

ヴォイス1・就職企画室インタビュー第2回

就職企画室は、企業との約束、学生との約束



情報科学研究科 2011年度就職企画室室長
教授 金子 俊一

すべてが人とのつながり。「愛される人になりなさい」

――職員の間では金子先生はエンターテイナーだという噂があります。金子先生が日頃人とのコミュニケーションを大事にしている姿も、これから社会人として生きていくために学生へ伝えたいことの中に含まれているのでしょうか。

金子 それはありますよ。いろんな活動の中でも、僕の一番大事な活動は研究室運営ですけど、研究室の学生に話すことのうち、大事なものの一つは「人にかわいがってもらおうこと」です。友人との関係とか、恋人との関係とか、両親との関係とか、会社との関係とか、というものすべて、かわいいと思ってもらえるかどうかだと思います。相手からかわいいと思ってもらうにはいろいろなことが必要ですけど、まず一番大事なことは、自分が人をかわいがるということです。かつこよく言えば、自分が人を愛するということが、「愛される人になりなさい」と言った方が良いでしょう。愛される人になるためには、まずは自分が人を愛さないとはいけません。だから僕は、研究室の准教授を始めとするスタッフにもよく「学生を好きにならなければならない」と言っています。そうすると、学生も自分を好きになってくれる。自分を好きになってもらうためには、やはり自分も心を開かなければならない。心を開くとね、こういう、僕のような人間になります。学生との間にハードルや垣根を作ると、こちらは大変ですよ。ね？「教授はいつもスーツを着て、ネクタイをして」みたいなね。あれはお金がかかるから僕はやりませんが、ジーンズを履いていた方が仕事ができるじゃないですか？みなさんにジーンズを履きなさい、とは言いませんけど、僕は安くても機能的だからこういう格好しています。だから、あまり垣根を作らない方が良いでしょう。研究室運営も、就職企画室の活動も、それと同じではないですか。

学生は、研究室の仲間を大事にした方が良いでしょう。先生も大事にしてほしいけど、仲間、後輩、先輩、同輩、友人を大事にする気持ちが大切ですね。学校推薦を大事にするということは、後輩をかわいがるということにも通じてきます。学校推薦は自分だけのものではないですから。自分が学校推薦で試験を受けて入って、そして今度はその組織から後輩を引っ張ってあげようとか、そういう意味にも通じてくる。学校推薦を大事にする気持ちというものは、将来にわたって大学とのコミュニケーションを取っていくということにもつながるし、北楡会の活動を盛り上げるということにもつながっていきますよ。自分が学校推薦についてどう対応するかということが後輩に影響していく、そしてその後輩の後輩がと、どんどんつながっていく。やはり見本になるようなことをしなければなりません。すべてが人とのつながり、かつこよくいうと、「人を愛していく」。自分を大事にして、人も大事にする。そういうことが基本にあるのではないですか。これは学校推薦に限った話ではないですけど、そういうことも進路や就職に大きく関係すると僕は思いますよ。

でも僕は、自分のところを訪れた学生全員にただただニコニコして「いいねいいね」と言っているわけではないですよ。専攻の学生に対しては、専攻の就職企画室員として叱ることもする。研究室の学生に対しても、研究室の長としてそうしている。研究指導をみなさん見たことはないかもしれませんが、何もやっていないと、学生は怒鳴られますよ。男の学生でも涙を流して研究をやりますよ。泣くことが

サイト内検索 Google

検索

情報科学研究科
公式twitter

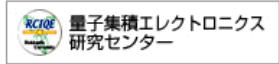


グローバルCOEプログラム

「知の創出を支える
次世代IT基盤拠点」

ERATO
基礎構造処理系プロジェクト

北海道大学
サステナビリティ・ウィーク
Hokkaido University Sustainability Weeks



良いことではないけれど、研究をやってない場合には泣くほど叱られることも必要ですね。時々、変に怒ってしまうこともあるけど、そういうときはすぐに謝ります。僕の研究室は学生が30人以上いますから、学生とのローカルミーティングも2週間に一度、1時間くらいしかできないんです。そういう環境で、三十何人いる学生一人ひとりに視線を合わせているいろんなことを教えたいという気持ちが出てくるから、いきおい私の中にも焦りが出てきて、変に怒ってしまうんでしょうね。この頃は私が叱るとみなさんが真似をするから、あまり叱らないようにしています。

[▲ページの先頭へ](#)

■ 研究科について

研究科長からのメッセージ
教育理念と目標・計画
情報科学研究科の組織
歴史・沿革
キャンパス環境
フロアマップ
ヴォイス

■ 教員一覧

■ 専攻・講座について

専攻・講座一覧
情報理工学専攻
情報エレクトロニクス専攻
生命人間情報科学専攻
メディアネットワーク専攻
システム情報科学専攻

■ 教育活動・学務情報

カリキュラム
奨学金のお知らせ
(日本学生支援機構)
奨学金のお知らせ
(民間団体・地方自治体等)
ISTラウンジ
講義情報
学位論文題目一覧
学位申請
証明書発行
学生生活
学生支援事業
研究補助業務(RA雇用)

■ 研究科ニュース

■ 研究活動・産学官連携
研究業績
寄附講座, 連携講座
ネットジャーナル
研究関連写真集
受賞一覧
共同研究

■ 入試情報について

■ 就職情報
■ 広報・発行誌
■ 研究科からのお知らせ
■ 関連リンク
■ 交通アクセス

研究科について

About Us

研究科について

- 研究科長からのメッセージ
- 教育理念と目標・計画
- 情報科学研究科の組織
- 歴史・沿革
- キャンパス環境
- フロアマップ
- ヴォイス

教員一覧

専攻・講座について

研究科ニュース

研究活動・産学官連携

教育活動・学務情報

入試情報

就職情報

広報・発行誌

研究科からのお知らせ

関連リンク

交通アクセス

ページ先頭へ

ヴォイス1・第2回

ヴォイス1・就職企画室インタビュー第2回

キャリアビジョンは固定のものではない

キャリア教育は就職活動中だけに限った教育ではない

――時期教育に対しての世論に、当番など当たり前の役割を果たしても必ず褒めるといった教育の風潮を批判するものがありました。大学生になって、家族以外に親身になって怒ってくれる人がいたという経験をして社会に出ていくというのは大事だと思います。

金子 叱るから良いということでもないと思いますが、僕の研究室は厳しいですよ。厳しいけれども、実際、博士後期課程に進学している学生は20人くらいいますから、もう研究室から逃れたい、進学したくないと思うような厳しさではないと思いますよ。僕が言うよりも、学生に聞いてもらうのが一番良いでしょうね。僕の研究室は、修士課程から入学してくる学生の半分は外部からです。外部からの学生は僕とつきあうのは初めてですから、最初は研究指導もスローですけど、だんだん厳しさが出てきます。だけど、僕はそういう厳しさに直面した学生に、この2年間なり5年間なりは俺に預けるよ、と言っています。たとえそれが自分の今までの研究のやり方と多少違っていても従いなさいと言っています。僕の研究室は共同研究も多いから、研究テーマも全て僕たちが与えます。学生が持ってきたテーマは一切ない。だから、学生が入学前にやりたいと何となく思い描いていたものとは違うかもしれないですね。だけど学生が持つそういう違和感は僕たちもわかっているんで、僕はすべての学生に、「研究室にいる間は僕のやり方に任せなさい、そのかわりに必ず幸せにしてやるから」と言っています。そして、博士後期課程を修了した後の出口もきちんと面倒見てあげるから博士後期課程に進学しなさい、と学生に約束してあげる。約束してあげないと、学生は大変ですよ。厳しいだけ厳しいのに自分の将来は自分でやれと言われたら、学生は「何のために先生にこんなに叱られなければいけないんだろう？」と思いますよね。僕は学生に、そういう厳しい訓練を経た後に自分がレベルアップしていくという実感を持ってもらうのが一番だと思っていますから、研究指導をしているその場で学生に「ほら、今この知識仕入れたら？この瞬間、君のレベルは3センチ、ふっと上がったんだぞ」ということをよく言います。これは就職企画室の活動にも通じてきますね。その場で教えてあげるとするのは大事なんです。だから、産業技術フォーラムのように、その場で、企業の人、先輩から、自分についての反応をすぐに見られるという機会は大事ですよ。人と会う、face to faceというのは大事だと思っています。

――受験勉強の数学が大好きで数学科に入学したけれども、大学の学問としての数学に肌に合わなくて悩む学生もいると聞いたことがあります。他学部の学生や今年度から総合入試で入学した1年生が就活ライブチャンネルを見に来て、「自分はこういう業界にも向いてるんだ」という新たな発見もあるのではないのでしょうか。

金子 もちろんあると思いますよ。やはり、将来なりたいものを目掛けて努力しなければいけない。僕は研究室に入ってきた学生が研究テーマを考え始める時に「君は将来何になりたいの？」と必ず聞きます。学生が電機メーカーに行きたいのか、自動車メーカーに行きたいのかによって、研究のやり方は少しずつ違ってくるはずだと思います。だから、僕ら教員はその努力をサポートしてあげるように、僕らの指導できる研究テーマがいろいろある中から、学位取得のための論文のテーマの選定や、研究の指導方法を学生が将来何になりたいかによって少しずつ変えるかもしれない。その分学生は、何のためにこれから厳しい指導が始まるのかという意識を高めてくれると良いですね。修士だと2年間、博士後期課程まで行くと5年間か6年間、学生は僕と付き合うわけですよ。その付き合いの中にある厳しいものに耐えていかなければならない。耐えるにはやはり、ご褒美としての「ニンジン」が必要ですよ。小学生の時はお母さんがニンジンをぶら下げてくれたかもしれないけど、大人になったらニンジンを自分でぶら下げる能力がないといけません。世の中に楽しいことはたくさんあるんだから、それを自分で探せるかどうかです。ニンジンを自分でぶら下げるためには、自分についてよく知っていく必要がある

サイト内検索

検索

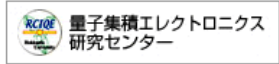
情報科学研究科
公式twitter



グローバルCOEプログラム
「知の創出を支える
次世代IT基盤拠点」

ERATO
基礎構造処理系プロジェクト

北海道大学
サステナビリティ・ウィーク
Hokkaido University Sustainability Weeks



から、就職ライブチャンネルに1年生でも、他学部からでも参加していただくのは結構ですよ。

先ほど、A社に行けなくてB社に入って自分を満足させられるかという話をしましたが、ニンジン（報酬）をぶら下げる能力とはその力ですね。10年先にニンジン（報酬）をぶら下げるのはなかなか難しい、それは僕もできない。だけど、3年先にぶら下げることはできるかもしれない。3年先に、たとえば、A社に入りたかったら、とりあえずそこがハードルになるでしょう？10年先はわからなくてもいいわけです。その3年先のニンジンを見て、今は自分のテーマでどこまで上がったらいい？ということを見なければいけない。僕はそういう指導もしていますよ。ただ、間違えてはいけないのは、就職のためだけに僕らがあるわけではないですからね。僕が一番大事なのは人材育成だと思っているから、誤解を恐れずに言うならば、研究内容はその次なんです。研究が第一だという先生もいるけれど、僕が思うに、僕らの仕事は学生の人材育成が第一なんです。それは就職のためだけではない。特に国立大学法人は、日本の国家というものを考えて、教員一人ひとり、そういう位置付けの中で人材育成をどうしたら良いかというものを考えなければいけないですね。特に教授の先生、研究室運営の責任者は、そういうことを考えないといけない。だから将来、学生が研究室を出て行って技術者として実社会に入るときに、学生が技術者として日本を支える気持ちを持つように、そういう気持ちは大事なんだぞ、と指導していかなければならない。就職企画室に関して、就職のためだけの存在ではないと思いますよ。就職のためだけに大学生活があるわけではないですから、もう少し広い意味で、大学生活の中のひとつが就職活動。学生はそんなふうにとらえて大学生活を送ると良いかもしれないですね。



■ 研究科について

- 研究科長からのメッセージ
- 教育理念と目標・計画
- 情報科学研究科の組織
- 歴史・沿革
- キャンパス環境
- フロアマップ
- ヴォイス

■ 教員一覧

■ 専攻・講座について

- 専攻・講座一覧
- 情報理工学専攻
- 情報エレクトロニクス専攻
- 生命人間情報科学専攻
- メディアネットワーク専攻
- システム情報科学専攻

■ 教育活動・学務情報

- カリキュラム
- 奨学金のお知らせ (日本学生支援機構)
- 奨学金のお知らせ (民間団体・地方自治体等)
- ISTラウンジ
- 講義情報
- 学位論文題目一覧
- 学位申請
- 証明書発行
- 学生生活
- 学生支援事業
- 研究補助業務(RA雇用)

■ 研究科ニュース

■ 研究活動・産学官連携

- 研究業績
- 寄附講座, 連携講座
- ネットジャーナル
- 研究関連写真集
- 受賞一覧
- 共同研究

■ 入試情報について

- 就職情報
- 広報・発行誌
- 研究科からのお知らせ
- 関連リンク
- 交通アクセス



研究科について

About Us

研究科について

- 研究科長からのメッセージ
- 教育理念と目標・計画
- 情報科学研究科の組織
- 歴史・沿革
- キャンパス環境
- フロアマップ
- ヴォイス

教員一覧

専攻・講座について

研究科ニュース

研究活動・産学官連携

教育活動・学務情報

入試情報

就職情報

広報・発行誌

研究科からのお知らせ

関連リンク

交通アクセス

HOME > 研究科について > ヴォイス > ヴォイス1・第2回

ヴォイス1・就職企画室インタビュー第2回

キャリアビジョンは固定のものではない

就職企画室は、企業との約束、学生との約束

――今まで研究室運営を中心に人材育成をされていて、昨年就職企画室の担当になってから、就職企画室のイベントの運営の想いや意図に、その育成を反映させる部分もあったのでしょうか。



金子 僕の個人的なやり方でできるところは、かなり反映させましたよ。例年ガイダンスは2回実施しますが、今年は3月の大震災への対応があったので1回増やして、3回ガイダンスを行いました。3回目のガイダンスの資料の主だったものは僕が個人的に作ったものです。震災の影響で、企業の採用活動の時期が変わることもあって、学校推薦も4月から始まるのか6月に始まるのか、学生にとって、この2か月というのはすごく大きいことでしょうか？学校推薦が2か月延びるかもしれない。そうすると、学校推薦をもらって受ける企業より先に、自由応募で受ける企業の採用選考が大詰めを迎えるとか、進学が決まることもあるわけですから、学生の自由応募の取り組み方も震災前とは少し変わってくるでしょう。だから僕も震災の後は、より一層緊張して臨みましたよ。第3回のガイダンスで学生には、自由応募について今までよりはきちんと位置付けてやりなさいよ、と説明しなければならぬし、学校推薦の大事さも理解させるように説明しなければならぬ。学校推薦で受けた、内定が出てそこへ決めた、にもかかわらずそれを蹴るとかそこに行かない、ということはいけないよ、ということですよ。就職企画室は日頃学生に「おまえらの味方だぞ」と言って活動している。でも、学校推薦も大事にしようね、ということです。そういう意味では、第3回のガイダンスでは、研究室運営の価値観とかノウハウとかを盛り込みましたけどね。

――この1年経験されたこの就職企画室の運営というものも、また逆に研究室運営に反映されていく、ということですか。

金子 もちろんそうですよ、特に室長をやると。私が就職企画室長として会った企業のリストがここにありますが、150社くらいあると思います。専攻の就職企画室員として会ったものもあります。それぞれの企業ごとにメモを作って、会社案内・内容とか、離職率とか、先輩が何人行ったとか、社風だとかを書きました。離職率は必ず聞くようにしましたね。就職企画室の活動では、企業に対してただ頭を下げるだけではないんです。就職企画室の態度としては、大事な学生を企業に提供していくわけですから、その学生を幸せにしてもらわなければならない。「あなたのところは、うちの大事な学生を幸せにできますか？」と聞きます。「幸せにできますか」と漠然と聞かれたら、企業も「はい」と言うでしょうね。でもきちんと聞くためには、3年離職率をきちんととっていますか？社内研修はどうしていますか？と問う必要があるのです。だから、特に離職の状況は強く聞きましたよ。給与とかは求人票に全部書いてありますから、そういうことは聞きません。僕が必ず聞いたのは、そういった、「就職後に学生をきちんと幸せにしてくれますか？」ということです。

サイト内検索



検索

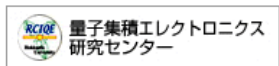
情報科学研究科
公式twitter



グローバルCOEプログラム
「知の創出を支える
次世代IT基盤拠点」

ERATO
基礎構造処理系プロジェクト

北海道大学
サステナビリティ・ウィーク
Hokkaido University Sustainability Weeks



でも一方で、博士を採ってください、といったお願いはしていかなければならない。研究科で博士後期課程の学生が四十何人いますから、企業には、「良い学生がいるんです、積極的に採ってくださいお願いします」と、いわゆる「営業マン」みたいな売り込みもしますよ。売り込みをすると同時に、うちの学生を入社後に幸せにしてくれるんですねという約束もしなければなりません。僕ら就職企画室は、うちの大事な学生ですからきちんと幸せにしてくださいよ、というある種のハードルにならないといけません。ただただありがとうございますというわけではない。変な企業はないと思いますけど、僕らがハードルになるためには、そういうことも油断なく見ていくことも必要だと思います。だから企業の人との面談が必要ですよ。ただ求人票をぼんと送ってきた企業の給与が良いから学生を推薦して行かせるということではないですよ。就職企画室はそういう仕事にもなると思います。

(2012/02/02)
<第3回に続く>

▲ページの先頭へ

■ 研究科について

- 研究科長からのメッセージ
- 教育理念と目標・計画
- 情報科学研究科の組織
- 歴史・沿革
- キャンパス環境
- フロアマップ
- ヴォイス

■ 教員一覧

■ 専攻・講座について

- 専攻・講座一覧
- 情報理工学専攻
- 情報エレクトロニクス専攻
- 生命人間情報科学専攻
- メディアネットワーク専攻
- システム情報科学専攻

■ 教育活動・学務情報

- カリキュラム
- 奨学金のお知らせ
(日本学生支援機構)
- 奨学金のお知らせ
(民間団体・地方自治体等)
- ISTラウンジ
- 講義情報
- 学位論文題目一覧
- 学位申請
- 証明書発行
- 学生生活
- 学生支援事業
- 研究補助業務(RA雇用)

■ 研究科ニュース

- 研究活動・産学官連携
- 研究業績
- 寄附講座, 連携講座
- ネットジャーナル
- 研究関連写真集
- 受賞一覧
- 共同研究

■ 入試情報について

- 就職情報
- 広報・発行誌
- 研究科からのお知らせ
- 関連リンク
- 交通アクセス